



認知症サポーターキャラバン

キャラバンメイト「ロバの会」通信 vol.41



杉田鈴子

私達、ロバの会の「第一の活動」町民の皆さんに認知症について知ってもらう、理解を深めてもらう「認知症サポーター養成講座」が先日（10/5）終了しました。新しい教材（今までの教材に、さらに一部追加された）で初めての講座でした。受講が2回目と言う方もいました。来年また、実施しますので初めての方も、2回以降の方も参加をして理解を深めて頂きたいと思います。数人集まれば出前講座もできますので、連絡下さい。

最近、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・講演・映画等々、さまざまな場面で目にするようになり、私達の日常に身近に感じられるようになった認知症ですが…。

< 認知症サポーター養成講座教材より >

なぜ認知症を学ぶのか…

認知症になったら何もわからなくなる、普通の生活を送れなくなるというイメージは持っていませんか？と問いかけられています。その上で現在では、認知症があっても活躍する人が増え、認知症に対するとらえ方は変わってきています。もう一つ 認知症の特性や症状の特徴を正しく理解することで、認知症への恐れや偏見、差別をなくしましょう。さらに、認知症についての知識を持ち、その上でちょっとした工夫や気づかいができれば、認知症の人や家族を応援できますとまとめています。

だれにとっても身近なことです…

認知症の有病率のグラフでは、女性・男性・全体といずれも右肩上がりです。若年期でかかる人もあり、家族や身近な人が認知症になる事も含め、誰にとっても身近なことです。

「認知症になったらどんな生活を送りたいかどんな地域、社会がよいか？」…

この事を我がこととして考えることが、認知症を理解する近道と考えます。認知症に優しい社会は、あらゆる人にとってバリアフリーとなり、誰もが支え合う事ができる活力ある共生社会となるでしょう。

認知症サポーターとは、「なにか」特別なことをする人ではありません…

認知症について正しく理解し、偏見をもたず、認知症の人や家族に対して暖かい目で接することがスタートです。近所づきあい、友人づきあいの延長線上で親身に話を聞く相談にのることも、その役割の一つです。地域の中で、誰が認知症になってもお互い様だよね・私になっても、今までどおりよろしくねと言ひ合える関係づくりも大きな力になります。 (テキストより抜粋)

さいごに…

「痴呆」から「認知症」に変わって20年、現在は認知症政策の転換期と言われ新しく考え方を变える必要があると提言されています。

◎認知症になったら周囲の人から“支えられる”だけ？ ではありません・当事者が一歩先を行く先輩として認知症について発信できる社会・必要に応じた手助けにより自分の力を生かした生活を送る

◎認知症への正しい理解を入り口とする「共生社会」の構築、共に生きる社会に

「誰もが認知症になっても自分らしく安心して暮らせる地域に」を願いロバの会は皆様とともに、今後も活動して行きたいと思ひます。

ロバの会勉強会に来ませんか？偶数月第4（火）18時30分～ハピネス内・教養室です



【お問い合わせ】キャラバン・ロバの会
地域包括支援センター ☎ 5-1165

杉之下真由美（代表）、杉田鈴子、坂入奈緒美、竹本礼子、筒淵恵子、
寺田律子、板橋亜矢



認知症サポーターキャラバン